



	English	中文	交通アクセス・地図	お問い合わせ	サイトマップ	サイト内検索
	受験生の方	広大へ留学希望の方	一般・地域の方	企業の方	卒業生の方	在学生・保護者の方

大学案内

入試情報

教育・学生生活

研究

社会連携

留学・国際交流

学部・大学院等

研究所・施設等

広報・報道

採用情報

校友会・同窓会

支援財団・基金

図書館・博物館等

大学病院

附属学校

[トップページ](#) > [広報・報道](#) > [報道発表・報道された広島大学](#) > [平成20年1月-12月](#) > 神経芽腫の遺伝子異常からスクリーニングの有効性を実証

神経芽腫の遺伝子異常からスクリーニングの有効性を実証

広島大学学長室広報グループ

〒739-8511 広島市鏡山 1-3-2

TEL:082-424-6017 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

(※@は半角に置き換え送信してください。)

NEWS RELEASE



平成20年9月24日

### 記者会見のご案内

#### 神経芽腫の遺伝子異常からスクリーニングの有効性を実証 - 予後良好な腫瘍の一部は、予後不良な腫瘍に変化している -

日本が世界に先駆けて1984年から実施し2003年に休止された、生後6カ月の乳児に対する「神経芽細胞腫検査事業」について、その有効性を検証し、本年4月に、この事業が死亡率を半減させていたことを発表した広島大学の榎山英三教授を中心とする研究グループは、自然治癒する腫瘍まで検査事業(スクリーニング)で診断し治療しているという『過剰診断』の問題を検証するため、日本と外国の神経芽腫症例のデータを比較した結果、死に至る悪性度の高い神経芽腫は、悪性度の低い神経芽腫からも発生することを解明しました。本研究成果は、10月6日にドイツで開催される第40回国際小児がん学会で発表します(日本時間10月7日)

今回、榎山教授らは、厚生科学研究の「登録症例に基づいた神経芽細胞腫マスキングの効果判定と医療体制の確立」プロジェクトで構築した神経芽腫データベースと、INRG(国際神経芽腫リスク検討グループ)のデータベースを比較しました。スクリーニングを行っていない時期の罹患率や死亡率は、外国の値とほぼ同様でしたが、スクリーニング施行中は、生後6-11カ月で診断される症例が増加する一方、2才以降は明らかに減少していました。また、このがんの悪性度を決定する最も大きな遺伝子異常であるMYCN遺伝子の増幅がみられる症例の頻度も、スクリーニング中で明らかに減少しており、これが死亡率の低下に関与していることがわかりました。MYCN遺伝子の増幅した症例が、スクリーニングを行っていない欧米に比べて少ないことは、この遺伝子異常は、腫瘍の進行とともに獲得されることを示しています。従来、悪性度の高い腫瘍は、悪性度の低い腫瘍とは別の経路で発生すると考えられていましたが、そうではないことが示されました。

この成果は、これまで『過剰診断』と推定されていたものの一部は「悪性度を増すリスクのある腫瘍」の早期診断で、早期発見こそが神経芽腫の有効な治療戦略である可能性を示しています。そのためのスクリーニングのあり方を再評価する必要もあります。

つきましては、下記のとおり記者会見を開催し説明いたします。ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、是非ご出席いただきたくご案内申し上げます。

#### 記

開催日時: 平成20年9月29日(月)11:00~12:00

場 所: 東京都港区芝浦3-3-6  
 キャンパス・イノベーションセンター 5階 リエゾンコーナー501  
 (TEL:03-5440-9065 広島大学東京リエゾンオフィス)

出席者: 榎山英三(広島大学自然科学研究支援開発センター 教授)

※本件配信先: 厚生労働記者会、文部科学記者会、科学記者会、専門・業界紙、雑誌社

【記者会見に関する問い合わせ先】

広島大学学長室広報グループ 担当: 山下、村上  
電話: 082-424-6131, 6017

#### 広大公式アカウント一覧



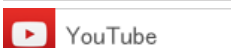
Twitter



Facebook (日本語版)



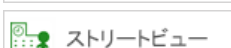
Facebook (英語版)



YouTube



行事カレンダー



ストリートビュー



キャンパスカメラ



学内ポータル